

第 102 回 地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会 会議録

日時	令和 5 年 8 月 22 日 (火) 10:00~11:45
開催場所	都筑区役所 3 階 第 6 会議室
出席者 【敬称略】	部会委員) 杉崎部会長、朝比奈委員、植松委員、川原委員、後藤委員、肥後委員、 松村委員、山田委員 事務局) 横浜市：榊原、村瀬、安藤、石田、秋浦、古谷 市民セクターよこはま：加世田、伊吾田 横浜市住宅供給公社：岡部、佐藤、土屋、高橋
開催形態	公開
議題	(1) 1 次コンテストの振返りについて (2) 令和 5 年度活動懇談会について
決定事項	なし

議事

事務局	1 開会 2 議題 (1) 1 次コンテストの振返りについて 「資料 1-1 及び資料 1-2」を説明
杉崎部会長	時間の長さについて、長いことと短いことの両方の意見が挙がるのは例年のこと。 情報収集タイムを全グループ回るべきかと、ブースが必要かについては議論が必要である。
川原委員	情報収集タイムで全グループ回るべきかについては、その時の提案件数によるため、提案件数が揃ってから議論をしたい。
朝比奈委員	ブースについては第 100 回部会でも議論をして簡素化されたと思うが。 ブースはあったほうが良い。視覚的に情報が入ってきて雰囲気を理解できる。グループと深い話をする際の参考にできる。
杉崎部会長	ブースを立派なものにすればコンテストを通過しやすいというわけではないことを、事務局は伴走支援の中で伝えていく必要がある。
事務局	過去の部会で、審査の判断材料として、提案書とプレゼンがある中でどこまで追加の判断材料を増やしてよいかという議論があった。
杉崎部会長	提案書がベースで、提案書を補うものがプレゼンやブースだと考えている。提案書に記載されていることとまったく異なるものになるのはおかしい。2 次コンテストではブースに模型があることなどで空間の理解の助けになることはある。
川原委員	模型であっても、プレゼンの際に模型を使わないと追加情報になってしまうと思う。
朝比奈委員	今まではコンテストのため、審査のために作っているというよりはワークショップで作ったものを置いていたと思う。
肥後委員	メンバーの中で得意不得意があるので、ブースはあったほうがわかりやすいと思う。
松村委員	ブースに労力をかけたものの、審査員が見てくれないという不満が表れてしまってい

	<p>ると思う。</p> <p>川原委員 審査員が講評の際に労力も評価しながら伝えると印象は変わるかもしれない。</p> <p>杉崎部会長 模型に限らずイラストなどにより、文字以外で空間をわかりやすく伝えられると良い。</p> <p>事務局 提案書とブースが異なるものだと情報量が多すぎるか。</p> <p>川原委員 例年提案書からさらにブラッシュアップされているプレゼンになっているので、プレゼンの内容とブースが一致していれば構わないと思う。提案書から少し変更されていても仕方がない。</p> <p>事務局 プレゼンの中で使用された写真の実物をブースに置くことは良いという理解で良いか。</p> <p>杉崎部会長 良い。</p> <p>山田委員 グループ側が気合いを入れてブースの準備をしてしまうのは理解できる。また、プレゼンの時間は短いため、それを補う時間があるのも良いかと思っている。情報収集タイムでの話の手掛かりとして、プレゼンのパワポが貼ってあるだけでも話しやすいと思う。1次コンテストでは、事前質問に対する回答が明確に得られていないものもあるため、その回答が見られるとよいと思う。</p> <p>杉崎部会長 回答は事前に共有してほしい。</p> <p>事務局 1次コンテストでは募集締め切りからコンテストまでの期間が短いため、これまで回答までを求めていなかった。</p> <p>川原委員 最低限ほかの委員がどのような質問をしたのかは共有してほしい。</p> <p>事務局 承知した。今回の2次コンテストは6グループが提案される予定だが、審査員全員がそれぞれのブースを回ることについてはいかが、また、セッションの時間は適切か。</p> <p>杉崎部会長 審査員同士で情報共有はしているもののブースを設営してもらっていることもあるので、全て回る前提でプログラムを作成してほしい。時間は適切かと思う。</p> <p>事務局 公開議論質疑の方法はどうか。</p> <p>杉崎部会長 共有したことについて全てのグループを一度に紹介する方法が個人的にはやりやすい。グループ毎に質疑まで行くと時間調整が必要になってしまう。</p> <p>植松委員 グループごとに質疑まで行くと、後ろのグループの方が有利になるかもしれない。</p> <p>川原委員 毎回1番目のグループが同じになるのは避けた方が良いかもしれない。</p> <p>杉崎部会長 検討する。</p> <p>杉崎部会長 なぜ全グループを通過させたのかと植松委員が個人的に意見をもらっていたことについては、今年度の応募件数が少なかったのが原因だと認識している。</p> <p>松村委員 審査基準は変わっていないことは伝えなくてはいけない。</p> <p>後藤委員 私の印象としては今年度通過したグループは絶対評価だとしても昨年度に提案されていたら通過しなかったのではないかという意見に感じた。</p> <p>杉崎部会長 あくまでもそれぞれの審査員はこれまでと同様の審査基準で判断している。</p> <p>事務局 審査員長が、コンテストの中で選考枠が拡充されたことを何度も発言されていたこと</p>
--	---

	もあり、全て選考しても構わないという心づもりを感じられることが少し気になっていた。
植松委員	昨年度のコンテストを知っている方からすると、落とすたくなくても、落ちてしまうグループがいて、今年度は今後に期待できるからと全て通過となったことで、「昨年度の2次コンテスト不通過グループにも再提案を打診すべきだったのではないか」という意見がでたのかと思う。応募件数が増えていけば提案のレベルは上がってくるはずなので、応募件数を増やしていくことが今後の課題だと思う。
川原委員	選考件数が拡充されたことは確かに特徴であるが、審査員長より、審査基準が変わっていないことは伝える必要があると思う。
杉崎部会長	挙げられた課題を意識して次につなげていきたいと思う。
杉崎部会長	他に意見はあるか。
松村委員	時間が長いという意見に対して、審査員側としてはやることが多いため、現状でも時間が足りないが、来場者側として間延びしてしまっていることは事実なので、考えた方が良くと思う。可能であればこれまでまち普請を活用して整備したグループに来ていただいて整備された施設や、活動のその後の状況の紹介などできると良いかもしれない。
杉崎部会長	事務局側に負担があると思うが、まちづくりの情報提供、事業の紹介、ディスカッションなども参加者の参考になるだろう。
川原委員	伴走支援について丁寧に説明があっても良いと思う。現地見学会や活動懇談会があることは説明をしているものの、良さを伝えきれていないと思う。 コンテストの後に活動がどのように進んでいくかなども説明があると良い。
杉崎部会長	2次コンテスト後、整備後のストーリーの紹介があれば、提案グループも活動のイメージがしやすくなるかもしれない。
事務局	全体をコンパクトにするという意見については、プログラムのどこかを削らないとコンパクトにはならない状況であるが、もし削るならどのプログラムというものがあるか。
杉崎部会長	全体をコンパクトに、時間が長いといった意見がアンケートにあるということだが、毎年あるものの少数派の意見である。現状、質疑応答などをしっかり行っただけで審査していることを辞めてまで、時間を短くする必要はないと思っている。
松村委員	内容が面白いと思えば時間は長く感じないはず。
川原委員	あらかじめ事前にコンテストが長いことは伝えていただき、心構えをしていただければと思う。
松村委員	川原委員もおっしゃっていたが、まち普請の良さ、プロセスを伝える機会を増やして欲しい。まち普請はハードルが高いイメージで、参加することで得られる良さが伝わらず、応募件数につながっていないことについては、コンテストの中で解消していく機会があればと思う。
杉崎部会長	2次コンテスト開催の広報では、次年度の応募につなげられる広報にして、昼休みに

	まち普請を活用した過年度整備グループなどに来ていただき、まち普請での流れなどを説明していただくと応募のきっかけになるかもしれない。
川原委員 事務局	まち普請に関わられた方呼んで座談会をするのも良い。 事務局側で事業を紹介する方法も検討したい。今年度はコンテスト会場に相談ブースを設置したが、効果は得られていない状況。
川原委員	まち普請に協力していただいている、まちづくりコーディネーターの顔が見えないのも気になっているので、登壇していただきエピソードをお話いただくのも良いと思う。
後藤委員	応募している側はコンテストに挑んでいる状況で、緊張したり、昼食の時間は作戦会議をしている中でそのような話をインプットできる心情なのか気になる。
杉崎部会長	2次コンテストに挑戦している方たちと、コンテストを観に来ている応募を検討している方たちがいる。応募を検討している方たちに有益な情報を伝えられるかなど分けて考える必要がある。
川原委員 杉崎部会長	あくまでも未来の応募者のためと割り切っていくのも良いかと思う。 他に意見があれば後程伝えてほしい。
	(2) 令和5年度活動懇談会について
事務局	「資料2-1、2-2」を説明
山田委員	アドバイザーとして参加した際に、ステップアップシートに記載の「アドバイスがほしい点」については、事前にアドバイザーとして回答を準備するが、当日は質問されずに終わってしまう。ステップアップシートの作成から活動懇談会当日まで時間が空いてしまうため、質問の内容が解決されている場合もあるかと思うが、お互いもったいないと感じた。アドバイザー側としても時間を使って回答を考えてきているので、うまく伝えられる仕組みがあればと思う。
杉崎部会長	あの時間の中で一つ一つ、全てを話すのは確かに難しい気がする。
川原委員	ファシリテーターが適宜話題を振ると良いだろう。ステップアップシートの提出から活動懇談会までどのくらいのタイムラグがあるのか。
事務局	2週間程度ある。
山田委員	もしかするとアドバイスがほしい点と記載されているか、アドバイスを聞きたいわけでもない話も書いてしまっているかもしれない。
杉崎部会長	ステップアップシートのアドバイスがほしい点は、左記のスケジュールに沿っていなくても良いのではないかと。グループ側としては記載しづらくなり、無理に記載をしているかもしれない。
事務局	スケジュール欄と切り離してグループに質問事項は検討してもらおう。次回以降様式を変更する。
杉崎部会長	アドバイザー側としては質問があれば考えてきていただけるとのことなので、当日の進行上すべてのアドバイスがほしい点について話す時間の確保が難しいこと、伝えきれなかった話は交流タイムで補足してほしい等をアドバイザーに伝えられると良いだろう。

事務局	<p>3 報告</p> <p>(1) 令和5年度整備施設の状況について</p> <p>「資料3」を説明</p>
資料	<p>(資料1ー1) 1次コンテストアンケート結果</p> <p>(資料1ー2) 1次コンテストYoutube視聴状況</p> <p>(資料2ー1) 1次コンテスト通過グループ活動懇談会について(案)</p> <p>(資料2ー2) 令和5年度活動懇談会「ステップアップシート」</p> <p>(資料3) 令和5年度整備施設の状況について</p>